中鉢 女子単複2冠

帯大谷3年

【女子1部シングルス】持ち味のフットワークを生かし、ダブルスに続いてシングルスも制して2冠を達成した帯大谷の中鉢青空

連続7得点で逆転勝利

「大丈夫。ここから我慢」。女子単の決勝第2ゲーム。中鉢青空（あおい）は連続失点し15―19となった時、少年団時代のコーチだった母望さんから掛けられ続けていた言葉を思い出した。「さあここから」。集中力が増した。羽根の読みがさえ、狙われていたコート奥からの切り返しなどで反撃した。ライバルに連続7得点しての逆転勝ち。「最終ゲームまで行ったら勝負は分からなくなると思っていた。勝てて安心した」。複に続き、少年団から通じて初の全十勝制覇に笑顔がはじけた。

国体道予選の十勝予選を兼ねた今大会は、推薦選手が欠場。管内に新型コロナが広がった影響を受け出場を見合わせた選手もいた。だからこそ負けるわけにはいかなかった。3月の全国選抜大会で道代表として戦った帯大谷の一員としての意地もある。「出られなかった選手がいる中で、2位とか半端な成績では駄目だ」。自らを奮い立たせた。

前日に制覇した複の疲れや股関節に痛みを残した。「155㌢と身長がない分、動かなくてはならない」。ただこれまで鍛え上げてきた持ち味のフットワークを意識して戦うと、次第に痛みも気にならなくなっていった。

地道に努力してきた成果だ。自転車通学をトレーニングの一環として無駄にしなかったこともその一つ。自宅からJR池田駅までと帯広駅から学校までの計7㌔は自転車を利用。登り道があっても立ちこぎせずにできるだけ足に負荷を掛けるなど、利用できるものは利用してきた。

親としても競技の先輩としても尊敬する母望さんの存在も大きい。池田中時代に団体戦と個人戦複で全道制覇。札幌静修高時代には主将を務めた。高体連道大会では団体全道優勝、個人戦複では南大会で準優勝した道内トップ選手の一人だった。「女手一つで育ててくれて感謝している」。その背中を追い続ける。

今後は恩返しとなる試合をもっと重ねていくつもりだ。今大会の上位大会となる国体道予選は、高体連の前哨戦。「1回戦から自分のプレーをしてベスト4以上を目指したい」。有力1年生や実力のあるチームメートと切磋琢磨（せっさたくま）しながら高校最後の年を充実させるつもりだ。

菊池 念願初V

帯三条2年

全十勝高校春季バドミントン

【幕別、芽室】バドミントンの第12回小林純幸杯争奪全十勝高校春季大会兼第77回国体道予選会（少年の部）十勝地区予選会（十勝バドミントン協会主催）が16、17の両日、札内スポーツセンターと芽室町総合体育館で開かれた。女子1部は中鉢青空（帯大谷3年）がシングルス（単）と、木村百華（同2年）と組んだダブルス（複）で十勝大会初優勝を果たし2冠を達成した。男子単は2年生の菊池蓮（帯三条）が全6試合をストレート勝ちし全十勝初制覇。同複は高橋侑杜・井上孔揮組（帯緑陽3年）が制した。各種目の上位6人・6組と、道新人北大会（1月）の4強以上に進出した単の松本悠汰（帯大谷2年）、瀬藤智史（同3年）、濱下亜美（同3年）、江口碧（同2年）、複の瀬藤・廣瀬大城組（同3年）、越川匠・高橋更玖組（帯柏葉3年）、濱下・江口組、本間陽・藤川麻愛組（帯柏葉2年）は5月5～8日によつ葉アリーナ十勝で開かれる国体道予選会に出場する。（岡部彰広、新井拓海）

諦めず食らいつく

【男子1部単】2年生で初優勝した帯三条の菊池蓮

男子単の菊池蓮は、得意とする利き腕・左の〝上からのショット〟で初の栄冠を手にした。決勝では互いに足がつっていた中で粘り勝ち。「我慢比べとなった」が、一球一球食らいつき諦めないで戦えた」。念願の優勝に胸を張った。

小学4年生からテニスをしていたが、中学校に同競技の部活動がなかったためバドミントンに転向。実力をつけていくにつれ、のめり込んだ。中2でチーム内トップに成長すると、強いライバルの存在がさらに意欲をかき立てた。「帯広一中が強くて…。自分もそうなりたいと思うようになった」。中学時代は単で十勝5位が最高も、ライバルの存在が高校で競技を続ける大きなモチベーションとなった。

今大会は優勝候補の帯大谷、帯柏葉らの有力選手が不在。それだけに優勝を強く意識した。「チャンスの大会。みんなからも優勝しろよと応援された」。ただ期待に応えられたことにほっとしつつ、気を緩めることはない。

「高体連には強豪が出てくるので、優勝は忘れて切り替えたい。まずは苦手なレシーブを安定させて、国体予選はベスト8を目標にしたい」

夏に十勝4強を

男子複優勝 高橋・井上組

【男子1部ダブルス】連係良く戦う帯緑陽の（右から）井上孔揮と高橋侑杜組

高橋侑杜・井上孔揮組が男子複で初制覇を果たした。11―7で折り返した第1ゲーム後半が鍵だった。ドライブ戦に持ち込まれた速い流れ。14―14とされると、その後はシーソーゲームに。それでも、対策を講じてきたペアは冷静だった。

今までの課題はスピード感。相手と攻め合う展開になると競り負けていた。大会前には、速い羽根を繰り返し打ち込まれる練習で、次の体勢をつくることを意識した。井上は「押し勝つ（こと）を大切にした。競っても楽しみながらできた」と、相手コートの空間を見極めて得点した。積極的に前に出る井上を、高橋は的確にフォロー。175㌢の身長で、自陣の後ろから力強いスマッシュを放って得点を重ね、第1ゲームを21―18で勝利した。

相手のミスもあった第2Gは流れを渡すことなく、「絶対に入れる」（高橋）と高い集中力を維持して、21―13で快勝した。

高橋は鈴蘭少年団、下音更中出身。井上は芽室中で競技を始めた。十勝16強の過去最高成績を大きく上回ったが、有力選手を欠く中での結果に2人は満足しない。高橋は「このチャンスを生かし、全道大会で結果を残す」、井上は「夏の高体連で十勝4強を目指す」と実力の証明に闘志を燃やした。

自信にはなる

男子1部準優勝・岡村優音（ゆうと、帯農3年）・小幡主真（かずま、同）組の話

好成績はうれしいが、優勝できなかった悔しさもある。重点的に強化したスマッシュの角度とコースは良くできた。今後は速いタッチやローテーションを頑張りたい（岡村）。帯大谷や帯柏葉がいない中での準優勝だが、自信にはなる。前衛としてネット際のプレーが自身の強みで、今回も攻めれた。今後の大会で相手のペアにリベンジしたい（小幡）。

ここまでよくできた

女子1部2種目準優勝・内田千晴（帯三条3年）の話

（全体練習が1週間できず大会3日前に再開したため）複はしっくりこない中、ここまでよくできたと思う。単はリードしていても負けない気持ちでやっていたが、やりたいプレーができなかった。動画を見て修正し、この悔しさを全道にぶつけたい。

一日一日大切に

同複準優勝・奥田梨乃（同2年）の話

何回も戦っている相手。勢いに負けないようにと思っていたが、決勝という大舞台で力を出せなかった。力がなくて（相手の）後ろに飛ばせず打ち込まれた。逆に打ち込めるよう頑張りたい。悔しい思いを糧にし、一日一日を大切にしていきたい。

女子中鉢 木村ペア 徐々にかみ合う

【女子1部ダブルス】全十勝初制覇を遂げた帯大谷の中鉢青空（左）・木村百華組

苦しかった試合をものにした。女子ダブルスを先輩の中鉢青空と組んで優勝した木村百華は「今大会は調子が悪かったが、試合をするにつれ先輩とかみ合っていった。最後は『楽しんでやろう』と笑顔でできた」と喜んだ。

シングルスプレーヤーの中鉢は高校で初めて複を経験。この2人が組んだのもまだ10カ月ほど。今大会は管内の新型コロナ禍の影響などでペアによる練習量が少なく、互いに不安を抱えながら試合に臨んだ。

木村はいつも持ち前の元気な声で気持ちを奮い立たせてきたが「今大会はふいに出る声も許されていなかったので」となかなか波に乗ることができなかった。それでも「前に前にと攻撃しながら（木村を）生かせるようにプレーを」と中鉢が前衛で踏ん張れば、後衛で木村が「先輩が決められる羽根を出す」と強い気持ちで戦った。

決勝の第1ゲームでは、20―10からミスなどで7連続失点も押し切った。第2ゲームも終始追う展開となったが、中盤に逆転して逃げ切った。今回は第1、第2シードに入った帯大谷の1年生ペアと北大会4強の2ペアが欠場した中での優勝だったが、全十勝初優勝を素直に喜んだ。そして木村は「校内の複は3枠しかない。実績のある新1年生が入ってきた中で、3年生の中鉢先輩と笑顔で終われるようにしたい」とさらに気持ちをかき立てた。

女子1部ダブルスの上位入賞者。（前列左から）奥田・内田、木村・中鉢、石田・武下、（後列左から）砂山・森、菅原・高木、川西・熊谷の各ペア

男子1部ダブルスの上位入賞者。（前列左から）小幡・岡村、井上・高橋、末永・中畑、（後列左から）森本・小田島、佐藤・竹田、平岡・山下の各ペア

男子1部シングルスの上位入賞者。（前列左から）澤田、菊池、北松村、竹田、末永、（後列左から）末永、

女子1部シングルスの上位入賞者。（前列左から）高木、中鉢、内田、（後列左から）川西、熊谷、奥田

【女子】◇シングルス1部▽準々決勝
熊谷星来（帯南商）2―0 渡邉怜奈（帯南商）
中鉢青空（帯大谷）2―0 川西美咲（帯南商）
高木沙英（帯大谷）2―0 小野田琉加（帯緑陽）
内田千晴（帯三条）2―0 奥田梨乃（帯三条）
▽準決勝
中鉢 2（21―21、21―19）1 熊谷
内田 2（21―14、21―16）1 高木
川西 2（20―22、21―16）1 渡邉
奥田 2（20―0）0 小野田
▽5～8位決定戦
熊谷星来（帯南商）2―0 渡邉怜奈（帯南商）
中鉢青空（帯大谷）2―0 川西美咲（帯南商）
高木沙英（帯大谷）2―0 小野田琉加（帯緑陽）
内田千晴（帯三条）2―0 奥田梨乃（帯三条）
▽準決勝
中鉢 2（21―21、21―19）0 熊谷
内田 2（21―14、21―16）1 高木
川西 2（20―22、21―16）1 渡邉
奥田 2（20―0）0 小野田
▽5・6位決定戦
奥田 2（20―0）0 川西
▽7・8位決定戦
小野田 2―0 渡邉
▽3位決定戦
高木 2（21―13、21―16）0 熊谷
▽決勝
中鉢 2（21―21、21―19）0 内田
◇同2部▽決勝
船木優花（帯緑陽）2―0 満保愛実（帯緑陽）
◇ダブルス1部▽準々決勝
菊池蓮（帯三条）2―0 竹田任希（池田）
北河大（帯北）2―0 工藤滉太（白樺学園）
▽準々決勝
森小羽（帯南商）2―0 陣ひなの（帯南商）
中鉢青空・木村百華（帯大谷）2―1 高木沙英・菅原詩月（帯大谷）
内田千晴・奥田梨乃（帯三条）2―0 熊谷星来・川西美咲（帯南商）
石田朱里・武下亜希（帯南商）2―0 保木花梨・田中希愛（音更）
菅原・高木 2―0 保木・陣（上谷・田中）
熊谷・川西 2―0 上谷瑠奈・田中希愛（音更）
▽5～8位決定戦
菅原・高木 2―0 保木・陣（上谷・田中）
熊谷・川西 2―0 上谷・田中
▽7・8位決定戦
上谷・田中 2―0 保木・陣
▽準決勝
中鉢・木村 2（21―17、21―8）0 砂山・森
内田・奥田 2（21―15、22―14）1 石田・武下
▽3位決定戦
石田・武下 2（21―18、21―16）0 砂山・森
▽決勝
中鉢・木村 2（21―16、17―21）0 内田・奥田
◇同2部▽決勝
井出依快・瀧澤里妃（本別）2―1 熊谷芙華・播磨友里菜（鹿追）

【男子】◇シングルス1部▽準々決勝
菊池蓮（帯三条）2―0 竹田任希（池田）
北河大（帯北）2―0 工藤滉太（白樺学園）
▽準決勝
菊池 2（21―16、21―11）0 末永
▽決勝
菊池 2（21―13、21―18）0 北
◇同2部▽決勝
清水勇（帯北）2―1 秋保祐太
◇ダブルス1部▽準々決勝
高橋侑杜・井上孔揮（帯緑陽）2―0 堀切琉生（帯北）
末永健太郎・中畑碧唯（帯工）2―0 小田島脩介・森本凱（帯農）
岡村優音・小幡主真（帯農）2―1 竹田任希・佐藤龍生（池田）
山下諒真・平岡大馳（帯緑陽）2―1 本元弦・佃勇成（音更）
▼順位決定戦▽1回戦
小田島・森本 2―0 高橋・堀切
竹田・佐藤 2―0 本元・佃
▽7位決定戦
高橋・堀切 2―0 本元・佃
▽5位決定戦
小田島・森本 2―0 竹田・佐藤
▽準決勝
高橋・井上 2（21―15、13―21）0 末永・中畑
岡村・小幡 2（21―17、21―10）1 岡山・平
▽3位決定戦
末永・中畑 2（21―15、14―21）0 岡山・平
▽決勝
高橋・井上 2（21―13、18―21）0 岡村・小幡
◇同2部▽決勝
水嶋貫太・真野龍生（帯北）2―0 青木奏汰・渡邊琉唯（幕別清陵）
末永健太郎（帯工）2―0 高橋丈祐（帯北）
▽準決勝
松村蒼一朗（帯三条）2―0 澤田心（帯北）
菊池 2（21―13、18―21）0 北
▽決勝
菊池 2（21―16、11―0）0 末永
▽3位決定戦
北 不戦勝 松村
工 不戦勝 高橋
▽7・8位決定戦
竹田 2（21―17、21―14）1 澤田
▽5・6位決定戦
澤田 2（21―10、21―17）1 高橋
竹田 2（20―22、21―12）1 藤
▽5～8位決定戦
末永 2（21―10、21―12）1 松村
澤田 2（23―21、21―13）1 高橋
工 2（20―22、21―10）1 藤
▽準々決勝
高橋侑杜・井上孔揮（帯緑陽）2―0 堀切琉生（帯北）
高橋丈祐・中畑碧唯（帯工）2―0 小田島脩介・森本凱（帯農）
竹田任希・佐藤龍生（池田）2―1 本元弦・佃勇成（音更）
末永・中畑 2（21―13、21―18）0 高橋・堀切
▽決勝
高橋・井上 2（21―15、21―13）0 末永・中畑
▼順位決定戦▽1回戦
小田島・森本 2―0 高橋・堀切
竹田・佐藤 2―0 本元・佃
▽7位決定戦
高橋・堀切 2―0 本元・佃
▽5位決定戦
小田島・森本 2―0 竹田・佐藤
▽準決勝
高橋・井上 2（21―15、13―21）0 末永・中畑
岡村・小幡 2（21―17、21―10）1 岡山・平
▽3位決定戦
末永・中畑 2（21―15、14―21）0 岡山・平
▽決勝
高橋・井上 2（21―13、18―21）0 岡村・小幡
◇同2部▽決勝
水嶋貫太・真野龍生（帯北）2―0 青木奏汰・渡邊琉唯（幕別清陵）

かちまいスポーツ
写真がほしい▼0120・25・9410
著作権などにより販売できない写真もあります